

横浜市インフルエンザ流行情報 8 号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所(最新はHPをご覧ください)

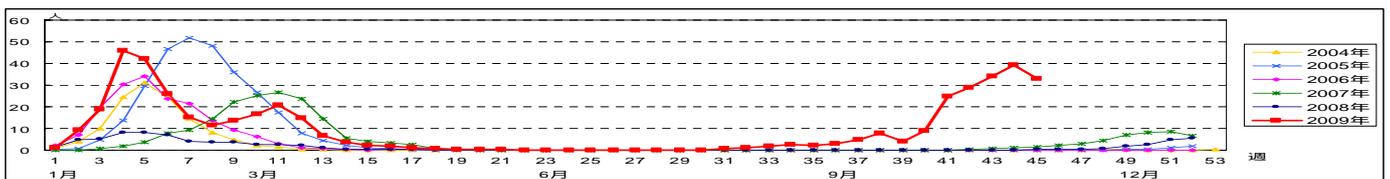
トピックス 流行状況は、やや減少が見られましたが引き続き警報レベルの高さです。

学校等の施設閉鎖状況は、施設数患者数共に減少しています。

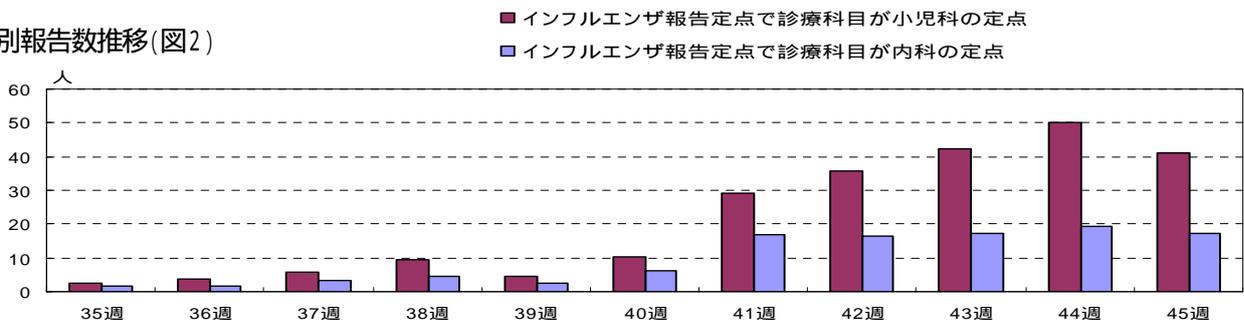
10 歳から 14 歳の年齢層が減り、5 歳から 9 歳の年齢層の感染が増えています。

- 市内流行状況につきましては、第 32 週(8 月 3 日からの週)に流行の目安となる定点あたりの報告数 1 を超え、第 41 週(10 月 5 日からの週)に注意報レベルの 10 を超え、第 43 週に警報レベルの 30 を超え(33.96)ました。第 44 週には 39.18 でしたが、第 45 週には 33.07 と減少していますが、11 月 3 日(火曜)が祝日だった影響が大きいと思われます(図1)。
- 報告数の減少は、主に小児科定点からの報告減によるものでした(図2)。
- 学級閉鎖等施設閉鎖の数も、第 42 週は 239 施設、対象患者 5513 人、第 43 週は 321 施設、4666 人、第 44 週は 262 施設、4969 人、第 45 週では 202 施設、3876 人と、施設数、対象患者共に減少しています。
- インフルエンザの病原体検出状況は、流行の目安を超えた辺りから、すべて AH1pdm のみです。
- 年齢層別 5 週集計では、20 歳代未満の感染が多く報告され、50 歳代以上の感染は 1% 前後しか報告されていません(図3)。
- 5 歳刻みでの年齢層別推移では、今シーズンは当初に 10～14 歳の年齢層の感染報告が一番多かったのが特徴でしたが、第 43 週からは 5～9 才の報告が最も多くなっています(図4)。
- 過去 10 年の 5 歳刻みの年齢層別推移では、流行が警報レベルを超えた年は、5～9 歳が最も感染の報告が多く、次に多い 0～4 歳の乳幼児は、概ねその半数程度です(図5)。今シーズンの 0～4 歳の乳幼児の感染動向に注意が必要と思われます。年末の繁華街等へ乳幼児を連れて長時間の滞在するのは控えたほうが良いでしょう。流行のない年は年齢層による差は認められません(図6)。
- 10 月の入院サーベイランスですが、211 人報告され、男性が 64% でした。一番多い年齢層は 5～9 歳(48%) で、20 歳未満が 89% を占めています。また脳症(疑い含む)、人工呼吸器使用、集中治療室を使用した重症例は実人数で 34 人(16%) 確認されました。脳症の確定例は 10 人、人工呼吸器使用は 17 人、集中治療を要したものが 27 人でしたが、心不全等基礎疾患治療によるものも含まれています(図7)。
- 行政区別情報では、全区が流行の注意報のレベル「10」を超え、9 区が警報レベルの 30 を超えています(図8)。
- 今後、重症化への変異や薬剤耐性等の病原体情報、重症患者情報等に対する注意が必要と思われます。

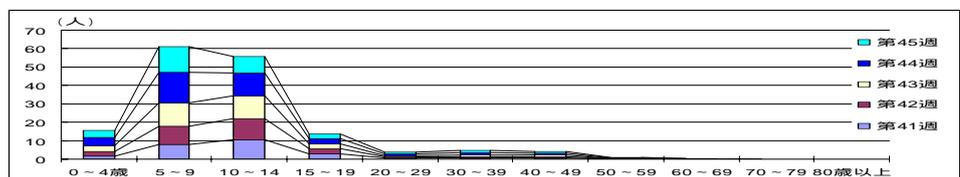
1 市内 145 か所(小児科 88 か所)の定点医療機関からの報告(図1)



2 定点別報告数推移(図2)

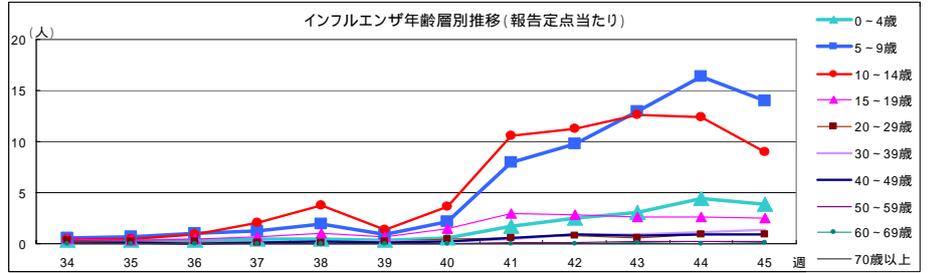


3 年齢層別 5 週集計(図3)



4 年齢層別推移(図4)

今シーズンの10-14歳は頭打ち



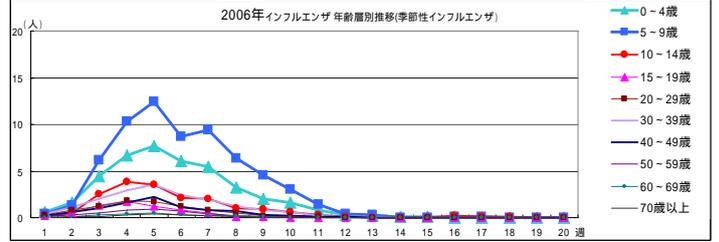
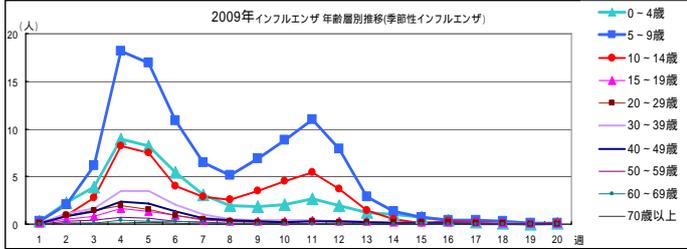
5 過去10年の流行時の年齢層推移

[流行が警報レベルを越えた年](図5)

2009年前半では2峰性で、11週をピークとした後半の山は、10-14歳の占める割合が高い。

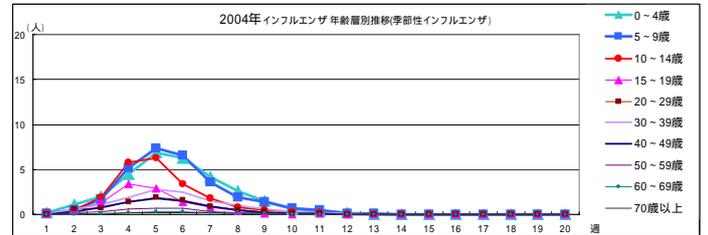
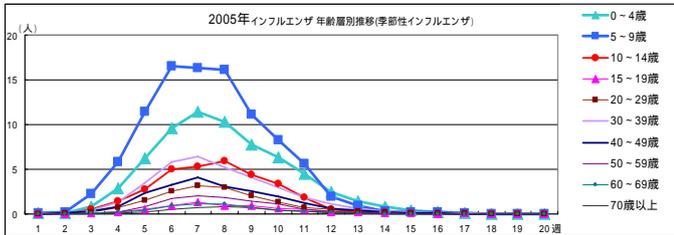
2009年前半 ピークは第4週 45.98(報告定点あたり)

2006年 ピークは第5週 34.21(報告定点あたり)



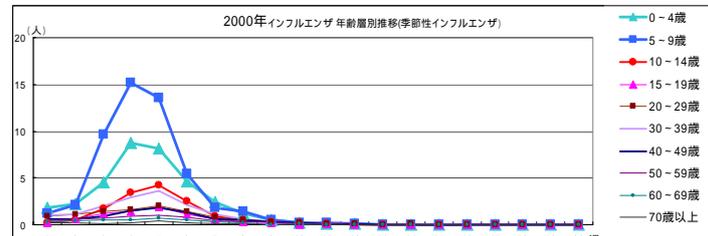
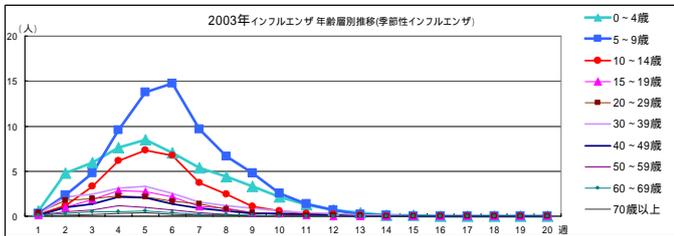
2005年 ピークは第7週 51.97(報告定点あたり)

2004年 ピークは第5週 31.05(報告定点あたり)



2003年 ピークは第5週 41.66(報告定点あたり)

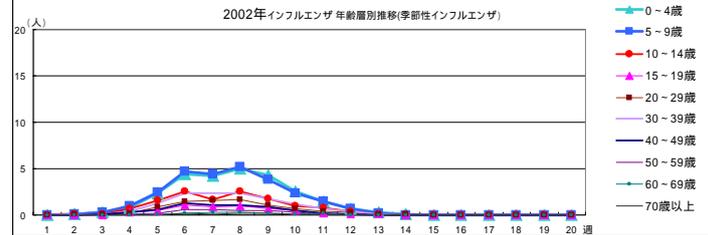
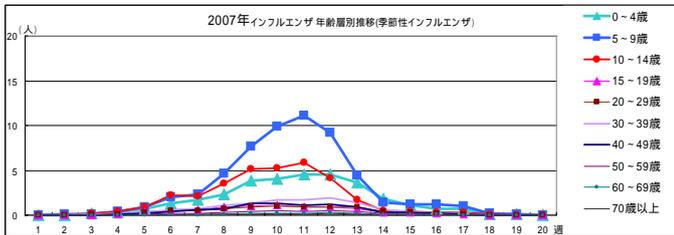
2000年 ピークは第5週 37.26(報告定点あたり)



[流行が注意報レベルを越えた年]

2007年 ピークは第11週 26.80(報告定点あたり)

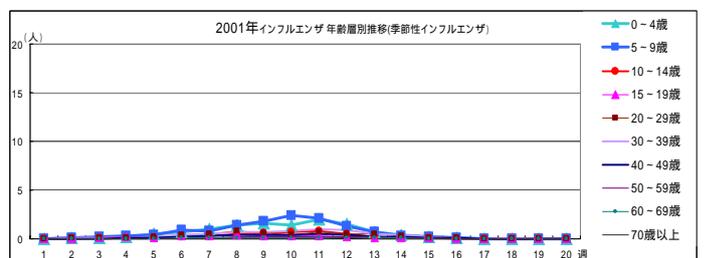
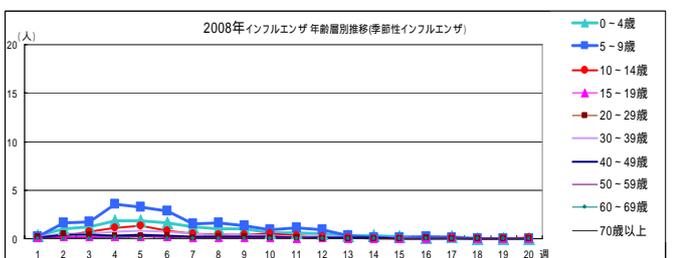
2002年 ピークは第8週 19.98(報告定点あたり)



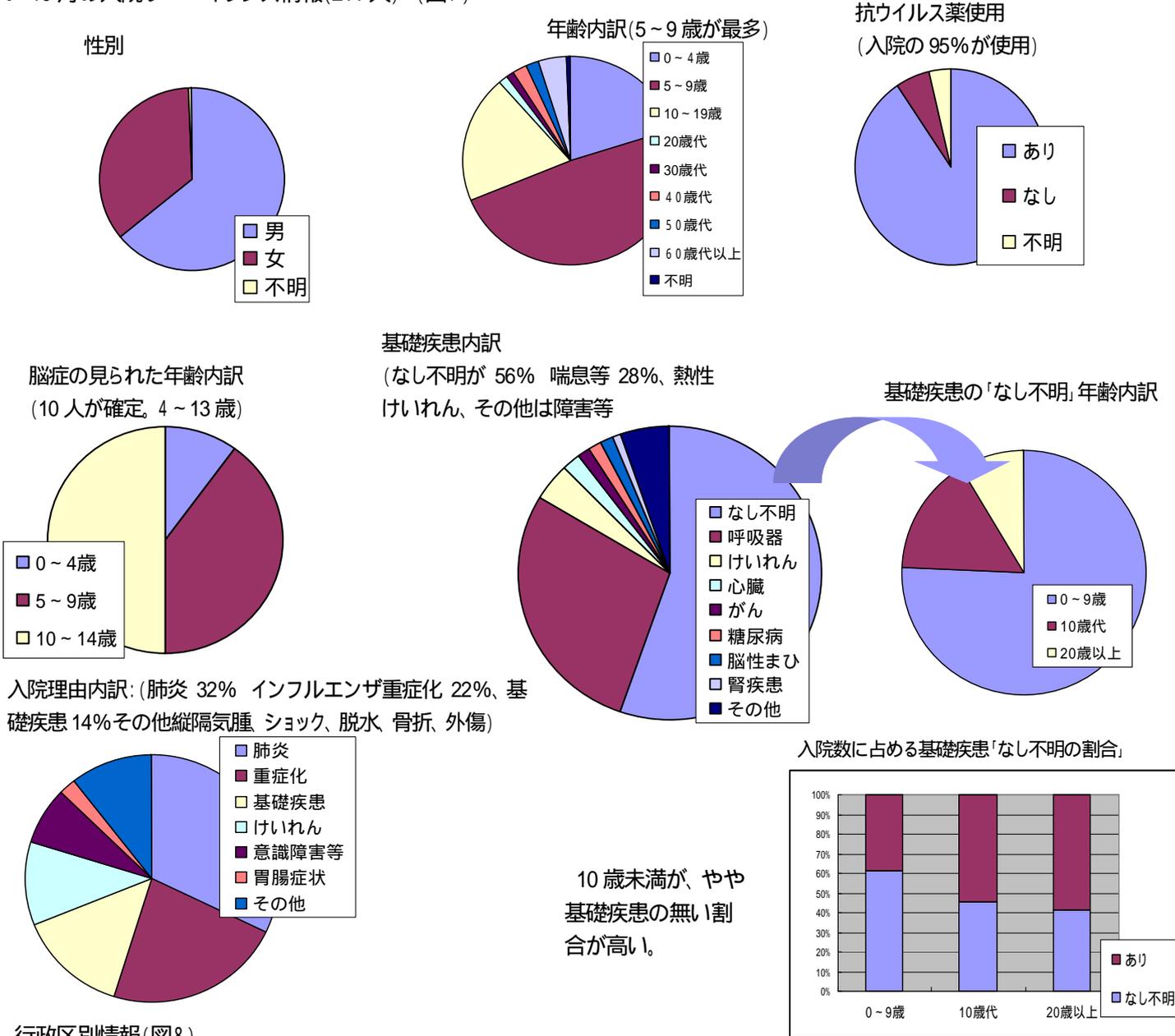
[流行の見られなかった年](図6)

2008年 流行は見られていません

2001年 流行は見られていません

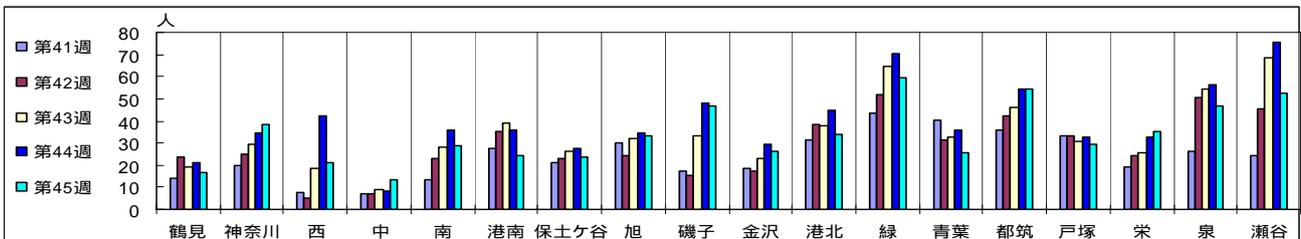


6 10月の入院サーベイランス情報(211人) (図7)



7 行政区別情報(図8)

週数	総数	鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢	港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷
報告定数	138	9	6	5	7	8	8	8	10	7	8	10	7	10	6	10	5	7	7
第45週	4564	149	232	107	95	228	197	190	331	326	209	338	416	257	326	292	176	328	367
定数当り	33.07	16.56	38.67	21.40	13.57	28.50	24.63	23.75	33.10	46.57	26.13	33.80	59.43	25.70	54.33	29.20	35.20	46.86	52.43



市内の状況については、<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

全国の状況については、<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/>

全国の集団かぜの状況については、<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/infreport/report.html>

をご参考下さい。

【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課 TEL045(671)2463
 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL045(754)9816
 同 検査研究課ウイルス担当 TEL 045(754)9804